

<へき地教育>

多様な考えを導き出す国語科複式学年別指導

——説明文の指導における直接指導・間接指導の工夫を通して（第5・6学年）——

うるま市立伊計小学校教諭 稲 福 盛 也

I テーマ設定の理由

現行の小学校学習指導要領の国語科目標にある「伝え合う力を高める」ことについては、平成20年3月に告示された新学習指導要領においても、その重要性が再確認され引き続き明記されている。そのことは、人と人との関係づくりの中で互いの立場や考えを尊重しながら、言葉を通して適切に表現したり、正確に理解したりする力を高めることが、学習指導要領の理念である「生きる力」をはぐくむ上でも大切である事が改めて確認されたと言える。

また、本県の児童の実態として、昨年度の「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語科における「活用」に関する問題において、全国平均との差が顕著に表れたと同時に、無答率も他問題に比べ高い数値を示し、思考力・判断力・表現力等を身に付けることが課題として浮き彫りにされた。その改善策の1つとして、児童が意欲的に課題を解決する授業や一人一人の児童が自分の考えをもてる授業の実践等が求められ、その実践を通して児童の「確かな学力」の向上が形成されると考える。

へき地教育の課題として、限られた人間関係等により語彙が乏しくなり表現力や発表意欲が低調になりがちであることや少人数の学習のため思考力や発想の多様性、論理性が不足がちであるなどの点が一般的にあげられる。本校の児童についても同様で、相互交流の相手が限定され生活体験や学習経験の広がりあまり期待できない等、極小規模校の特徴が顕著に見られる。そのため、児童に豊かな発想力を身に付けさせ、多様な考え方を導き出すことがこれからの指導の大きな課題にあげられる。そこで、その課題解決のためには、複式学習指導の特性を最大限に生かした直接指導と間接指導の具体的な指導の工夫が必要であると考える。

これまで、複式学習指導の課題として捉えてきた間接指導時の「学び」の時間を「自主的・自発的学習時間を多くとることができる」、つまり「児童にとってじっくりと自分の考えや思いを持つことができる時間」と積極的に捉え直し、複式学習指導をより充実させる貴重な要素として指導の改善に取り組んでいきたい。また、効果的な間接指導を意識した直接指導の工夫を図ることで、児童に自ら学ぶことの楽しさを知らせ、さらに次の課題を自ら探求していく児童を育成することができると思う。

そこで、本研究では児童が筋道を立てて意見を述べるために、児童の多様な考えを導くことに有効な説明文の指導を取り上げる。そして、複式学習指導において直接指導では児童の豊かな発想や多様な考えを促すような発問の工夫を図りたい。さらに、発表交流の場を設定し友達と自分の考えを比較し互いの良さを認め合いながら自分の考えを見直すことで、自分の考えも深まってくると考える。また、間接指導ではマインドマップを活用し、授業のめあてに関係すると思われる言葉をスケッチブックに整理させながら異なる立場から見た場合の意見も追加させたい。そして、書き上げたマインドマップを参考にしながらワークシートに考えをまとめさせたい。この時、自分の考えに根拠を持たせるためのヒントとして、異なる立場の意見を予想すればいいことにも気づかせたい。そうすれば、児童は自分の考えや意見を持つことに意欲的になり、多様な考えを導き出すことができるだろうと考え本テーマを設定した。

<研究仮説>

国語科複式学習における説明文の直接指導・間接指導の場において、発問を工夫し発表交流の場を設定することや、マインドマップを活用しワークシートを工夫することで、児童は自分の考えを持つことに意欲的になり、多様な考えを導き出すことができるであろう。

II 研究内容

1 国語科における多様な考え方を導き出す指導について

(1) 身に付けさせたい多様な考え方

平成20年1月に出された中央審議会答申における国語科の改善の基本方針をうけて、小学校国語

2 多様な考えを導き出す複式学習指導

(1) 直接指導における手立ての工夫

表1 発問の種類

① 多様な考えを導き出す発問の工夫

発問の種類は一般的に(表1)のように三つに分けられる。「良い発問」や「効果的な発問」と言われるものは、子どもの活

ア	語句や事実についての知識を尋ねる発問
イ	内容の解釈についての発問
ウ	批判・評価・鑑賞についての発問

発な発言を促し、いろいろな意見が出てくる可能性のある発問であり、子どもが自由に思考する余地の多いことから、ウの批判・評価・鑑賞についての発問のことが多い。そこで、多様な考えを導き出すための発問の工夫のとして、子どもの習熟に応じて、子どもが既に持っている知識や経験と相反するような発問を始めに出して、児童が当然のこととしている思考に対して「挑戦」をする。そして、子どものモチベーションを高め、解決への意欲を起こさせるような「ゆさぶり発問」も効果的に活用していく。また、ア・イの発問においても「～は何ですか？」ではなく、「～に関して二つ以上答えなさい」のように常に複数の答えを要求するような発問を工夫する。

② 発表交流の場の工夫

少しでも多くの考えに触れさせたり、一人一人の学習の成果を認め合ったりするために、授業の終末に異学年合同の発表交流の場を設定する。ここでは、発表者は発表ボードを使用し「今日の授業でわかったこと」を簡潔にまとめて発表する。その時に、自分の伝えたいことが相手にうまく伝わるように発表ボードの書き方も箇条書きにする等の工夫をさせる。また、発表する時は、今日の授業のわかったことだけでなく、自分の考えに根拠を明らかにさせて発表させることにする。そして、その根拠を明らかにさせる方法として「多面的なもの見方」をすればいいことに気づかせる。さらに、聞き手は自分の考えと共通するところや異なるところを見つけ、それに対しての意見や感想を発表したり質問をしたりする。発表交流の場では自分の考えの根拠を示して発表し、友達と意見を交換し合うことで多様な考えが導き出せると考える。

(2) 間接指導における手立ての工夫

① マインドマップの活用

スケッチブック上に教科書から抜き出した言葉を、言葉相互の関係を考えて配置したり、多面的に見た自分の考えを加えたりすることで、児童は発想力を広げるとともに言葉を関連付ける力や多面的に物事を見る力を培うことができる。そして、ワークシートに読み取ったことをまとめる時にも、考えが整理されたマインドマップを活用すれば、自分の考えを文章でまとめることが容易になると考える。また、発表交流の場で自分の考えの根拠を導き出す時にマインドマップを活用することで、これまでの自分の考えを簡単に振り返ることができる。

② ワークシートの工夫

ワークシートの一般的な特徴として、(表2)のようなことがあげられる。

表2 ワークシートの特徴

○ 説明文の指導において

- ・ キーワードや重要な文を見つけて、ワークシートに書き込む。
- ・ 自分の読み取ったことをワークシートに書き込む。
- ・ 読みの視点をもとに、筆者の考えに対する自分の考えをワークシートに書き込む。

○ 複式学習指導において

- ・ 困ったときに、解決法のヒントを与えられるようなもの。
- ・ 個人差に対応したステップ方式のもの。
- ・ 初めの「ずらし」の時点で前時の学習を振り返るために、学習した内容が提示してあるもの。
- ・ わからない時やわかった時に、次にどうしたらよいか指示が入っているもの。

以上のことを踏まえ、ワークシートに答えを複数用意し、自分が読み取ったことの根拠をはっきりさせるため、「異なった立場から見る」という欄を設定することで多面的に物事を見せる工夫をする。また、児童の実態を配慮して5年生は、答えの書き込みがしやすいように、短い言葉で書き込めるように解答欄を工夫する。6年生は、内容の理解だけで終わらせないようにじっくりと筆者と対話をさせたいために「書かれている内容がわかりやすかったか」「筆者の考えに納得したか」を書く欄も設定する。

3 説明文の指導について

(1) 多様な考え方を導き出す説明文の指導とは

説明文の特徴として、事実の世界であること、論理的順序をたどった読み取りにより感動が起こりうること、説明文の読みにおいて読み手は常に第三者の立場に立たされるということの三つが一般的にあげられる。また説明文指導の長所として、文章が明快なので理解させやすいこと、指導内容が明快であること、段落の関係や指示語の使い方など指導の目的や内容が明確であること等が考えられる。

長崎伸仁(2008)は「説明文学習の目的は何か。『表現』である。つまり、『表現力』までを視野に入れた説明文学習でなければ真の読解力、国語学力は獲得できないのである。」と述べている。つまり、説明文の指導において単に書かれてある内容について理解すること、構成や表現の工夫を読み取ること、筆者の考えや意図が分かること等を理解させることのみを指導するのではなく、表現力を向上させることまで視野に入れ、児童が考えを持つことを重視する指導を行うことが大切であると考える。説明文の指導を、内容を読み取り理解させる指導で終わらずに、読み取ったことに自分の考えをもたせる指導を行うことで児童に多様な考えを導かせることができるであろうと考える。

(2) 説明文の学習手順

説明文の学習においてよく行われている活動は、形式段落に分けること、段落の要点をまとめること、意味段落に分けること、文章構成図を書くこと、要旨をまとめること等がある。これらの学習の中で、答えがはっきりしていて児童が自信をもって答えられる活動は「形式段落に分けること」であると考えられる。これは、教師の「行の最初が一文字分空いているところに番号をつけるのですよ」と具体的な指示がなされているからである。反対に指示が具体的に示されていない活動では、答えが曖昧になり、「～をまとめなさい」という活動指示だけでは、児童はどのようにして、どのような内容を答えればよいかわからなくなり学習の停滞が起こると考える。

それらの課題を解決するために、白石範孝(2008)は「説明的文章の読みにおける基礎・基本をおさえ、その力を説明文の読みの活動に生かすことができるようにすることが重要ではないだろうか。その基礎基本とは、用語を知ること読み取るための方法を習得することであり、その方法を活用して積極的に児童が文章に立ち向かう読みができるようにすることである」と述べている(表3)。

表3 基礎・基本をおさえた要点指導の手順

<p>1 いくつかの文で構成されている？ 形式段落は、いくつかの文でできているかを調べる。</p> <p>2 中心となる大切な文を見つける 「大切な文」は何をもって大切といえるのかを明確にする必要がある。ここでは次のような視点で捉えさせていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none">・それぞれの文の役割を考えさせる。・それぞれの文の中から、結論が述べられている文を見つける。・形式段落内の主語と述語から見つける。 ※中心となる文は、たいていの場合一文を抜き出すことができる。 <p>3 短い文にまとめる。 抜き出した一文を短くまとめさせることで「要点」とする。さらに、効果的な表現方法として、次の2点を捉えさせたい。</p> <ul style="list-style-type: none">・主語、述語、キーワードを見つけて文にする。・文末を体言止めにする(この方法は、意味段落を見つけるときに役立つ)。

授業の中では、最初に形式段落に分けさせ、それぞれの段落で読み取ったことをまとめさせる。この自分の読み取ったことをまとめる場面で、特に3の短い文にまとめる指導を参考にする。まずキーワードとして学習のめあてに関係ありそうな言葉をマインドマップ上に並べさせる。そしてワークシートにマインドマップ上に並んだ言葉を参考にしながら主語や述語を考え文章にさせる。その後、自分の読み取ったことに対して「異なった立場からの考え」を書き入れさせることで、児童が自分の考えを持つことができ、その過程で児童の多様な考えも導き出せると考える。

III 指導の実際

<p>第5学年</p> <p>1 単元名 目的に応じた伝え方を考えよう 教材名：「ニュース番組作りの現場から」</p> <p>2 単元の目標 ◎文章構成をつかみ、要旨をとらえて、ニュース番組がどのように作られているかを知り、伝えたいことと伝える方法について興味を深める。</p>		<p>第6学年</p> <p>1 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう 教材名：「平和のとりでを築く」</p> <p>2 単元の目標 ◎筆者が訴えたいことを読み取り、それについて自分の考えをもつ。</p>				
<p>3 児童の実態とその支援</p> <p>○本学級の児童は5年生1人、6年生2人で構成される複式学級である。</p> <p>○5年生は、人前で恥ずかしく話することができるように、自分の気持ちや経験したことを落ち着いてゆっくりと話すことを目標にしている。6年生は、二人とも読書が好きで語彙力は豊富である。人前で自分の考えや意見を発表する際も、考えをまとめながら発表することができる。</p>						
児童	実態	支援				
A児（5年生）	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを恥ずかしくせずに相手に伝えることを頑張っている。 必要なことを読み取ったり、要点をまとめたりすることを頑張っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくりとあせらずに話ができる雰囲気をつくる。 時間をかけ、指導したことを丁寧に確認しながら進める。 				
B児（6年生）	<ul style="list-style-type: none"> 物事がきちんと進まなくてもあきらめずに頑張るよう努力している。 意見を発表する場面では、発表に集中するように頑張っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方を丁寧に説明する。 失敗やできないことは恥ずかしくないといい雰囲気を作る。 				
C児（6年生）	<ul style="list-style-type: none"> 最初はゆっくりだがコツをつかむと学習速度が早くなる。 粘り強く課題に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方を丁寧に説明する。 十分な時間を確保し、じっくりと課題に取り組ませる。 				
<p>4 評価規準と指導計画</p> <p>（5年生）</p>						
国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	読む能力	言語事項			
①ニュースを探して伝えることに興味をもち、伝え方や内容を工夫しようとしている。	①自分の伝えたいことや意図が分かるように、話の組み立てを工夫しながら、適切な言葉遣いで話す。	①番組作りの大切な点を的確に押さえながら報道スタッフの願いなどを読み取る。 ②自分たちが番組を作るために必要な事柄を時間の順序にしたがって段落ごとに読み取る。	①ニュースの文章構成の特徴を理解する。			
時	学習活動と留意点	評価		評価方法		
		関心	語聞	読む	言語	
1	<ul style="list-style-type: none"> ○全文を通読し、初発の感想を発表する。 ・興味を持たせるために、実際のビデオを視聴させる。 ・マインドマップに初めて知ったことや興味を持ったことを書かせる。 	①	①			ワークシート 発表
2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> ○教材文の全体構成を理解させ、過程を表に整理する。 ・大きなまとめ（1・2）は教師と一緒に整理しながら教材文への着目の仕方を指導する。 ・マインドマップに読み取った内容を書かせる。 		①	①	①	ワークシート 発表
4	<ul style="list-style-type: none"> ○「特集」がどんなきっかけで作られ始めたのかを理解する。 ○それぞれの仕事はスタッフの協力があることを知る。 ○番組作りの各過程（1・2）で大事なことや気をつけることを読んでまとめる。 		①	①		ワークシート 発表

	<ul style="list-style-type: none"> ・「話題選び」のまとまりを教師と一緒に整理し、作業の手順を指導する。 ・マインドマップに大事な点や気をつけることを書かせる。 				
5 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○番組作りの各過程(3~5)で大事なことや気をつけることを読んでまとめる。 ・「インタビューや撮影」のまとまりを教師と一緒に整理し作業の手順を指導する。 ・マインドマップに大事な点や気をつけることを書かせる。 	①	②		ワークシート 発表
6	<ul style="list-style-type: none"> ○番組作りの努力や願いについて考えをまとめる。 ・読み取ったことを自由に書き出す。 ・導入に見たビデオをもう一度視聴させる。 	①	①		発表
7	<ul style="list-style-type: none"> ○自分がデスクだったら、どんな特集をしたいかを考える。 ・教材文最後の段落に着目させしっかり要旨を捉えさせる。 	①			ワークシート

(6年生)

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	読む能力	言語事項
①筆者の訴えを受けて自分なりの考えをもち、「平和」について関心をもって読んだり、話し合ったり、書いたりしようとしている。	①自分の伝えたいことや意図が分かるように、話の組み立てを工夫しながら、適切な言葉遣いで話す。	①「平和のとりでを築く」という題名が意味することに注意しながら読む。 ②筆者の考えをまとめ、自分はどうのように考えるかをまとめる。	①文章にはいろいろな構成があることを知り、適切なものを考える。

時	学習活動と留意点	評価				評価方法
		関心	語	読む	言語	
1	<ul style="list-style-type: none"> ○全文を通読し、初発の感想を発表する。 ・これまでの平和についての学習体験を想起させる。 ・マインドマップに初めて知ったことや興味を持ったことを書かせる。 	①	①			ワークシート 発表
2	<ul style="list-style-type: none"> ○4つの大きなまとまりに分けて文章の構成を理解する。 ・形式段落に分け、さらに意味段落に分けさせる。 ・大きなまとまり1は教師と一緒に作業し手順を指導する。 			①	①	ワークシート
3	<ul style="list-style-type: none"> ○原爆ドームやその保存への道のりについて読み取る。 ・マインドマップに課題を解決するために、手がかりになりそうな言葉をひろい出させ書かせる。 		①	①		ワークシート 発表
4	<ul style="list-style-type: none"> ○世界遺産に認められる過程を読み深める。 ・原爆ドームが世界遺産に認められた意味を読み取らせる。 ・マインドマップに原爆ドームのたどった歴史と人々の思いと関係のある言葉を書かせる。 		①	①		ワークシート 発表
5 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○⑫と⑬はどちらが重要か判断させる。 ・文章構成に着目すれば筆者の伝えたいことが捉えやすくなることを助言する。 ○筆者の伝えたいことに対する考えをまとめる。 ・筆者の伝えたいことを確かめるための視点を確認させる。 ・筆者の伝えたいこと読み確かめる視点をもとに自分の考えをマインドマップに書かせる。 ・筆者の伝えたいことの根拠を明らかにしてまとめさせる。 		①	②		ワークシート 発表
6 7	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が発信したいメッセージをまとめる。 ・平和に関してもっと知りたくなったこと、感じたことを出させ問題意識を高めさせる。 	①	①	②		ワークシート

5 本時の指導 (5/7)

(1) 目標

- 番組作りの各過程で大事なことや気をつけることを読み取り、理由をつけて説明する。

5 本時の指導 (5/7)

(1) 目標

- 筆者の伝えたいことをまとめ、理由をつけて説明する。

<p>(2) 授業仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の読みをまとめる場面で、大事なこと、気をつけることを整理してマインドマップを作成させることで、大事なこと、気をつけることを読み取ることができるであろう。 ○自分の考えを発表する場面で、根拠を示して発表させることで、多様な考えを導くことができるであろう。 <p>(3) 展開 (5年生)</p>		<p>(2) 授業仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の読みをまとめる場面で、筆者の主張を整理してマインドマップを作成させることで、筆者の伝えたいことを読み取ることができるであろう。 ○自分の考えを発表する場面で、根拠を示して発表させることで、多様な考えを導くことができるであろう。 <p>(3) 展開 (6年生)</p>		
留意点と評価	学習内容と活動	指導過程	学習内容と活動	留意点と評価
・難しい語句は印を付けさせる。	①音読をする。	ふりかえる	①学習課題をつかむ。	
		つかむ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 一めあてー 筆者の伝えたいことをまとめよう。 </div>	
	②学習課題をつかむ	つかむ	②段落⑬と⑭についてどちらが重要か考える。	・リーダーの支持にしたがって進めるガイド学習で進めさせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 一めあてー 大事なことや気をつけることを見つけよう。 </div>		③筆者の伝えたいことをまとめる。	・筆者の伝えたいことを読み確かめるための視点を持たせる。
・大事なことや気をつけるが「特集」で学習したことと関連することを知らせる。	③番組作りの過程で大事なことや気をつけることを読み取る。 ・関連語句をマインドマップに書く	調べる	・マインドマップに、確かめる視点にそって自分の考えを書き込んでいく。	【読】 ・筆者の考えをまとめるできている。
・話題選びの過程は教師と一緒にする。 【読】 ・大事なこと気をつけることを的確に読み取っている。	④読み取ったことをワークシートにまとめる。	調べる	・自分の考えを整理してワークシートにまとめる。	
		同時間接指導	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> □ は間接指導 </div>	
・見やすい描き方を工夫させる。	⑤今日の授業でわかったことを発表ボードにまとめる。	深める	⑤今日の授業でわかったことを発表ボードにまとめる。	・見やすい描き方を工夫させる。
・質問を考えながら発表を聞かせる。 【話す・聞く】 ・自分の伝えたいことや意図が分かるように話の組み立てを工夫しながら適切な言葉遣いで話している。	⑥自分のまとめたことを発表する。 ・根拠を示しながら考えを発表する。 ・友達の発表の良いところ、自分と違うところを考えながら聞く。 ⑦次時の予告をする。	まとめる	⑥自分のまとめたことを発表する。 ・根拠を示しながら考えを発表する。 ・友達の発表の良いところ、自分と違うところを考えながら聞く。 ⑦次時の予告をする。	・質問を考えながら発表を聞かせる 【話す・聞く】 ・自分の伝えたいことや意図が分かるように話の組み立てを工夫しながら適切な言葉遣いで話している。
<p>(4) 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○番組作りの各過程で大事なことや気をつけることを読み取り、理由をつけて説明することができたか。 		<p>(4) 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○筆者の伝えたいことをまとめ、理由をつけて説明することができたか。 		

6 仮説の検証

研究の仮説に基づく授業実践で直接指導・間接指導を工夫した複式学習指導を行なった。児童が多様な考え方を導き出せたかを判断するために、児童の発表やマインドマップ、ワークシートそして授業前後のアンケートから直接指導・間接指導の工夫の有効性を検証する。

(1) 直接指導の工夫について

① 発問の工夫から

児童の読み取ったことに対して「本当にそうですか」「他の可能性はありませんか」という発問を繰り返し行ったことで、児童はいつでも異なる立場から見ることに関心を持ってきた。C児は感想で、自分の考えたことに対し「本当にそうかな」と考え直すことで理由がはっきりしてきたことから、自分の意見に理由をつけて書くことができるようになったと述べている。また、同時間接指導時に「個あたり」を行い個に応じた発問の工夫をすることで、A児はワークシートに自分の考えの根拠を書き込むことができた。そして、発表交流の場で根拠を示し発表したことで、6年生から褒めてもらい苦手だった発表に自信を持つことができたと感じを述べた。授業後のアンケートでC児は「書くこと」において「嫌い」から「好き」となり、A児は「話すこと」において「嫌い」から「やや好き」とそれぞれ変容した(図3)。このことから発問の工夫は児童の多様な考えを導くことに有効であると考えられる。

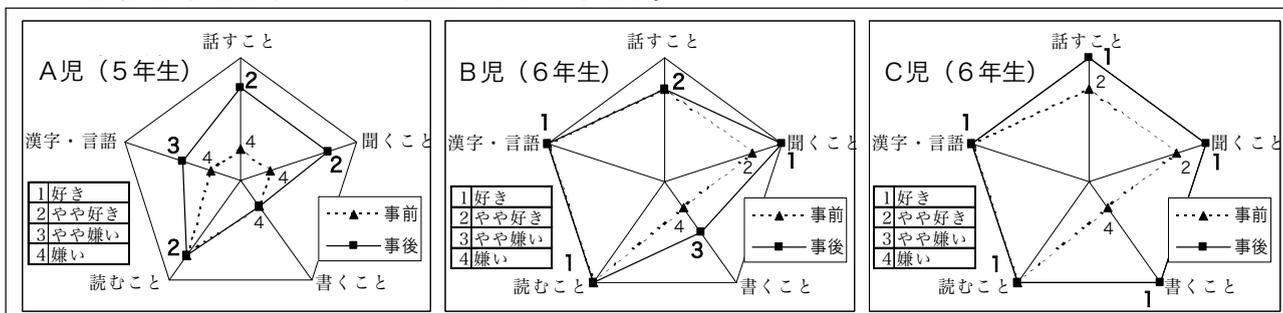


図3 国語の学習に関するアンケート(事前と事後)

② 発表交流の場の設定から

毎時間の授業の終末に、異学年合同で「今日の学習でわかったこと」を発表する交流の場を設定した(図3)。児童は、発表ボードに簡条書きや簡単な図で発表する内容を書き込み、これを掲示しながら発表した。その際、自分の考えや意見には、必ずその考えの根拠となる理由をつけて発表することとした。

児童は最初、理由をつけて考えを発表することは難しいと感じていた。しかし、A児はアンケートに「最初は説明することができなかつたけれど、反対の立場の意見を使えばいいと分かった」と回答し(表4)、C児は「自分の考えに理由をつけて説明する方が、相手に伝わり易く説得力がある」と感想で述べる等、自分の考えを「多面的に見る」ことの良さに気づくことで発表することに意欲的になってきた。さらに、児童は自分と異なる考えが出てきた時や自分と同じ考えでも理由が異なる時には、「なぜそういう考えにたどり着いたか」ということを質問し意見を交換した。そのことで自分の考えを広げたり、自分と異なる立場の考えについても認め合ったりすることができた。これらのことから、発表交流の場の設定は児童の多様な考えを導くことに有効であると考えられる。



図3 発表交流の様子

表4 発表交流に関するアンケート

Q 発表交流では、自分の考えに理由をつけて説明することができましたか？		
1, よくできた。 2, どちらかというときできた。 3, どちらかというときできなかった。 4, まったくできなかった。		
児童	回答	選んだ理由
A児(5年生)	3	理由を考えるのは難しかったけどがんばった。
B児(6年生)	2	最初は説明することができなかつたけれど、反対の立場の意見を使えばいいとわかったから。
C児(6年生)	1	マインドマップやワークシートで自分の考えを書くことで、理由も考えられたから。

(2) 間接指導の工夫について

① マインドマップの活用から

教科書に、今日の授業のめあてに関係すると思われる言葉に線を引かせ、その言葉を、言葉相互の関係を考えさせながらスケッチブックに書き写させマインドマップを作成させた。その後、自分の感じたことや考えたことを異なる立場から見たらどうなるかを続けて書くようにした。

児童は以前、カルタというフィンランド式のマインドマップを書くことを経験していたので、言葉に関連させたり、広げたりしていく書き方には慣れていた。しかし、異なる立場から見て書くことに関して、初めのうちは書き込みが停滞することもあった。そこで、異なる立場から見ることは「反対だったらどうなるだろう」と考えることに置き換えてみた。B児は、「核兵器は『不必要』である」という教科書の言葉から反対の立場から見ることを「核兵器を『使ったら』どうなるのか」と考え、「人が死ぬ」「悲しみが増える」等異なる立場から見た自分の考えを広げることができた

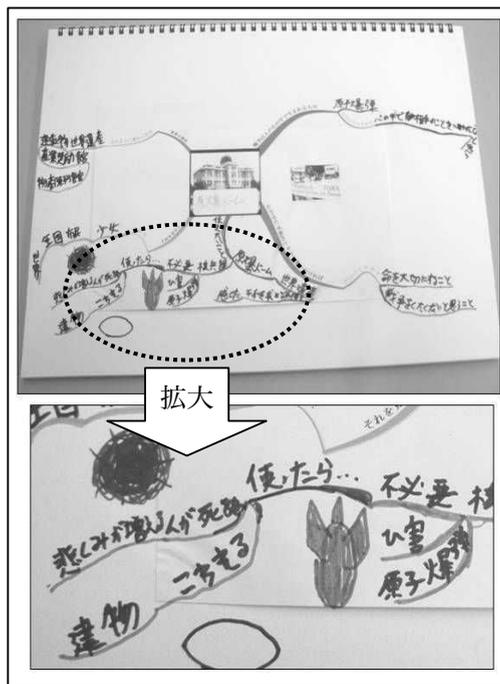


図4 B児の作成したマインドマップ

(図4)。また、児童3人ともマインドマップを活用することは、読み取ったことを異なる立場から考えることに「とても役に立った」と回答し、C児は理由として「自分の意見をマインドマップに書いて、それを見ながらだと考えやすかった。」としている(表5)。これらのことから、マインドマップの活用は児童の多様な考えを導くことに有効であると考えられる。

表5 マインドマップに関するアンケート

Q 筆者の考えなどを異なる立場から考えることにマインドマップは役に立ちましたか？		
1. とても役に立った。 2. どちらかという役に立った。 3. どちらかという役に立たなかった。 4. まったく役に立たなかった。		
児童	回答	選んだ理由
A児 (5年生)	1	自分の考えたことが整理できた。
B児 (6年生)	1	自分の今の気持ちが書き留めて置けるし、いろんなことを整理できるから。
C児 (6年生)	1	自分の意見をマインドマップに書いて、それを見ながらだと考えやすかった。

② ワークシートの工夫から

発表交流の場で、自分の考えにしっかりと理由をつけて発表することができるよう、読み取ったことに「異なる立場から見たらどうなるか」を記入する欄を設けワークシートを作成した。「異なる立場から見たらどうなるか」を記入する時には、マインドマップに書き込んだ言葉を参考にしながら、自分のこれまでの体験や経験、身に付けている価値観に照らし合わせた。また、作業の見通しが持てるよう児童の実態にも配慮した。A児のワークシートは、作業の流れが一目でわかるように段落を独立させ、書き込むスペースを大きくした(図5)。それにより、A児はワークシートにしっかりと自分の読みを書き込むことができた。また逆に、B児・C児はワークシートの記入はじっくりと考える時間とし、「筆者の言っていることは本当に正しいか」「筆者の考えは納得できるか」等ワークシートで筆者と積極的に対話をさせた。自分の考えを多面的に見ることで「こういう考えは納得できる」「こういう考えは納得できな

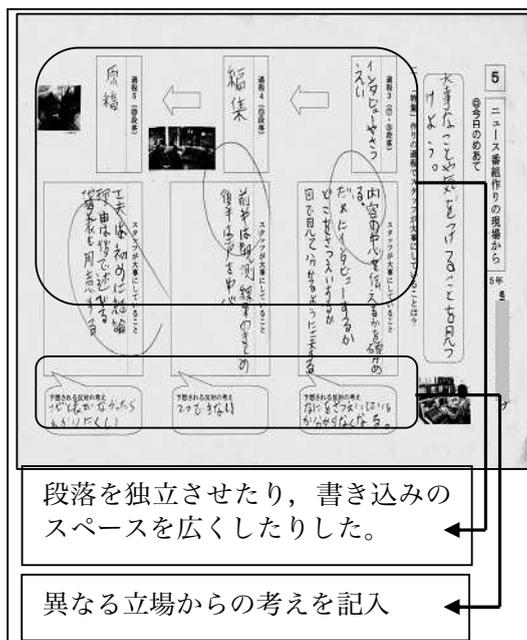


図5 A児のワークシート

い」と整理し、考えの根拠がしっかりとしたものになった。アンケートからも、A児は根拠をはっきりさせて書き込みができたことで、「発表がしやすかった」、ワークシートは「とても役に立った」と回答し、B児・C児とも「反対の立場で考えると異なる立場から見ることができ、自分の意見に理由をつけることに役に立った」と回答している（表6）。これらのことから、ワークシートの工夫は児童の多様な考えを導くことに有効であると考えられる。

表6 ワークシートに関するアンケート

Q ワークシートに異なる立場から考えることを書き入れることは、自分の考えに理由をつけることに役に立ちましたか？		
1. とても役に立った。 2. どちらかという役に立った。 3. どちらかという役に立たなかった。 4. まったく役に立たなかった。		
児童	回答	選んだ理由
A児 (5年生)	1	はじめはできなかったけど、少しできるようになった。発表がしやすくなった。
B児 (6年生)	2	始めは難しかったけれど、後から「反対の立場を考えるとおかしいからこの意見であってるんだ」と思えたから。
C児 (6年生)	1	反対の意見を書くことで「それじゃあだめじゃないか」と思い、「こうなってしまうからこれでいいんだ」と理由を考えつくことができたから。

(3) 多様な考えを持つことへの意欲について

単元終了後は、国語の授業に対する関心も高まり単元テストにおいても3人とも点数の向上が見られた(表7)。さらに、C児においては、授業後のアンケートで「今までやっていた遊びでも、もし別のことをやったらどうなるかと意識できるようになった」と回答し(表8)多様な考えを導き出そうとする姿勢が生活の場にも広がりつつあることが伺える。

表7 単元テストの結果

	国語平均点 (2学期)	授業単元
A児 (5年生)	80	90
B児 (6年生)	97	100
C児 (6年生)	97	100

表8 異なった立場から見ることに関するアンケート

A児 (5年生)	考えようとしたけどちょっと意味がわからなくなることもあった。
B児 (6年生)	最初は苦手だったけど「逆のことを考える」ということをしたら簡単にできるようになった。
C児 (6年生)	今までやっていた遊びでも、もし別のことをやったらどうなるかと意識できるようになった。

IV まとめと今後の課題

「多様な考えを導き出す国語科複式学年別指導」をテーマに仮説を立て、その仮説を検証し研究を進めてきた。多様な考えを多面的に物事を見ることと捉え、一人でも多様な考えを導き出すことができる指導法として、直接指導では発問の工夫や発表交流の場の設定、間接指導ではマインドマップの活用やワークシートの工夫を行った。その結果、児童は物事に対して多面的に見る力が育成され多様な考えを導き出すことへの意欲が高まってきた。本研究で得られた成果と課題を以下に述べる。

1 成果

- (1) 直接指導の場において、発問を工夫し発表交流の場を設定することで、自分の考えの根拠をはっきりさせるために多様な考えを導き出そうとする意欲を高めることができた。
- (2) 間接指導の場において、マインドマップを活用しワークシートを工夫することで、自主的に多様な考えを導き出そうとする態度を育成することができた。
- (3) 日常生活の場においても、多様な考えを導き出そうとする態度が育成されつつある。

2 今後の課題

- (1) 学年別の複式指導において、学年毎の指導の偏りを無くすために個に応じた支援のあり方をさらに効率的にする必要がある。
- (2) 児童の多様な考えを導き出すためには、教師も多様な考えを用意しておく必要がある、そのためには教材活用の仕方等、さらに指導の改善を図る必要がある。

<主な参考文献>

- 全国国語授業研究会・白石範孝・桂聖 2008 『活用力を育てる説明文の授業』東洋館出版社
 長崎伸仁 2008 『表現力を鍛える説明文の授業』明治図書
 井上尚美 2007 『国語教師の力量を高める』明治図書